

**郷土に根ざし、未来を見つめ、  
たくましく生きる子どもの育成を目指して**  
池田町立池田中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	3回
地域及び家庭への学校公開	5回(のべ) 5日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	20人
授業ボランティア(含:低ボラ)	0人
登下校支援ボランティア	0人
その他( )	0人

(3) 特色ある活動

テーマ「地域と連携したボランティア活動」

「能楽の里池田マラソンにおける、ブラインドランナーへの伴走ボランティアの推進」

今年度は町内の小学校が総合され、本校と校庭を隔てて隣接する1校になったため、いまままで小中別々で開催していた地域学校協議会も、1つに統合するよう昨年度から準備していた。今年度になり、新体制で小中合わせて協議をするようにした。その中で、児童生徒が地域に関わる活動の1つとして、池田町が主催する能楽の里池田マラソンへの関わりについて提言をいただいた。



↑小学生と一緒に

中学校では例年、池田マラソンに参加するブラインドランナーへの伴走ボランティアを続け、今年度で8回目を迎える。ランナーからはもとより、ランナーに寄り添って懸命に走る生徒の姿を見、地域の方からも高い評価をいただいている。また生徒自身も、綱1本で命を預かるこの経験を通して、その責任の重さと信頼してくれるランナーへの思いに活動への意欲も非常に高く、得るものが大きい。

そうした中、小学生も伴走が一緒にできたらという提言をいただいた。残念ながら、本番のマラソンでは、中学生と小学生の走力が大きく違い実施は難しいが、体験なら可能ということで、隣接の利点を活かし、小学校高学年と中学生の体育の授業時間を合わせて、中学生が講師役となり、伴走教室を実施した。異年齢との交流とともに、中学生にとっては本番に向けて責任と自覚を持たせる良い機会となり、小学生にとっては中学校へ入ったときに経験する行事を垣間見るよい機会となった。またこの後、小学校ではこの学習を活かし、障がい者理解への学習へとさらに発展させたと聞いている。



↑全員で記念写真

マラソン当日は、地域・学校協議会のメンバーの多くも、所属する団体の代表として運営に大きく関わり、また、小中学生の参加を見守った。天候にも恵まれ、生徒たちも無事に伴走ボランティアの責務を果たすことができた。

成果と課題

小中合同の地域学校協議会を立ち上げた初年度として、町全体を見通し、小中一貫した教育活動への提言をいただき実施することができた。さらに情報収集を進め、今後もこのような活動を推進して、小中の枠を超え、地域の児童生徒の育成を進めていきたい。